

---

鉾山研究会

# ニューズレターNo.86

2011年9月20日

---

- 1 定例研究会のお知らせ
- 2 前回研究会の報告
- 3 海外鉾山文献読書会のご案内 丸山もとこ
- 4 諏訪鉄山、金鶏鉾山（長野県）巡検案内 村田淳
- 5 第10回伊豆鉾山（下田、河津方面）巡検案内 村田淳
- 6 第9回国際鉾山ヒストリー会議 論文募集のお知らせ
- 7 資料紹介 川俣修壽
- 8 事務局からのお知らせ

鉾山研究会 連絡先

会長 村串仁三郎

〒270-0127 流山市富士見台2-5-16-13-401

電話・ファックス 0471-52-8952

メール・アドレス

事務所 国学院大学、若木タワー第913号、菅井益郎研究室

〒150-0011 渋谷区東4-10-28

## 1 定例研究会のお知らせ

日時 10月22日（土）、午後2時—5時

場所 法政大学市ヶ谷キャンパス、80年館7階丸会議室

報告

- 1 「円高と鉱物資源の価格変動について」 平塚 尚護
- 2 「旧産炭地研究会の活動について」 中澤 秀雄
- 3 「幕府直轄鉱山、岩見銀山の存続とその周辺地域」

原田洋一郎

なお中澤さん（中央大学法学部教授、社会学専攻）は、旧産炭地における炭鉱の生活、記憶、記録を後世に残すための研究、調査をおこなっているグループのリーダーです。前回の足尾銅山の写真のデータベース化と関連して、興味深い報告が期待されます。

原田さんの報告は、氏の近著『近世日本における鉱物資源開発の展開』（古今書院）の第5章をもとにおこなわれます。

## 2 前回研究会の報告

7月9日法政大学で2時30分から開催された研究会には、12名ほど参加し、小野崎敏さんの「足尾銅山の光と影」と題し、足尾銅山＝鉱害ととられがちな足尾銅山を、光の部分にも言及し、足尾銅山の日本近代化に果たした正の部分論じた。なお、この報告は、労働界では著名な雑誌『労働の科学』に連載中の論文をもとにしたものであった。今後の連載論文にも注目したい。

報告の中休みに、遠田義則さんの、自作のギター曲「松木の風景」が演奏され、参加者を喜ばせた。

2番目の報告は、「足尾銅山の写真をデータベース化しつつある作業について」と題し、新会員の藤田貢崇法政大学経済学部教授の報告がおこなわれた。これまで、足尾銅山の写真をデータベース化の活動をおこなってきた藤田貢崇、小野崎敏、昨年釜石鉱山見学に参加された元NHK論説委員の小出五郎氏らの作業が紹介された。

その後、小出氏から送られてきた足尾銅山の写真をデータベース化についての事情を、ここで紹介しておきたい。

## 近日Webに公開・「足尾銅山・映像データベース」

(2011. 7. 1)

節電に伴うサーバーの運営調整のため予定より少々遅れていますが、近日中に「足尾銅山・映像データベース」をWeb上に、試験的に一部公開できる見通しです。「試験的に一部」とは、今後とも映像の追加やキャプションの修正・追加を進めて内容の充実を図り、また、使いやすさを改善して行くという意味です。

下記は、「足尾銅山・映像データベース」プロジェクトの概要です。

### 1) データベース作成の目的

足尾銅山は公害の原点とされるが、日本の近代化を牽引した立役者でもあった。写真ジャーナリストの先駆者・小野崎一徳（おのざき・いっとく）は、最先端技術を駆使した銅山の操業、周辺環境、住民の日常生活などを、50年余にわたり数千枚の写真に記録した。写真は時とともに散逸したが、一徳の孫・小野崎敏（さとし）氏は十数年かけて再収集した。その写真をもとに日文英文の説明付きデータベースを作成してWebで発信し、足尾の遺産を地域振興につなげるとともに世界が学べるものとする。

### 2) これまでの経緯と目指すもの

#### 1. 出発点

足尾銅山は文明の遺産である。その遺産を余すところなく、50年にわたって足尾に住みついて写真に記録したのがフォト・ジャーナリストのパイオニア、小野崎一徳だった。

戦災などにより写真はいつしか散逸した。しかし、その祖父の写真を十数年かけて再収集したのが小野崎敏氏。足尾に育ち、鉄の仕事に就いたとき足尾の遺産の奥深さに気づいたという。写真と膨大な資料を収集した中で、敏氏自身が足尾の生き字引的存在になった。

しかし、一徳の写真にはキャプションがない。そこで敏氏の知識の聞き書きおよび資料の検証から得た情報を付し、足尾の文明遺産の意義を今日に甦らせることを計画した。

## 2. データベースによる社会貢献、世界貢献

第一に、本プロジェクトがファースト・ステップとしている小野崎一徳写真データベースは、古河機械金属（株）やNHKが資料として保存している動画の価値を増すだけではなく、個別の資産と地域資産をドッキングさせることで、新しい活用の展開につなげることができる。

第二に、過疎化の進む地域社会の活性化に積極的に貢献することができる。足尾歴史館の展示と資料の充実につなげる協働、古河機械金属（株）との協働、メディアとの協働などが考えられる。

第三に、データベースを日本語と英語で作成することで、文明遺産の意義を世界に発信する。日本だけではなく、世界の同じような産業・環境問題を抱える国と地域からのアクセスを期待し、世界へ貢献できるものとする。

現在、足尾を世界産業遺産として登録を求める動きがあるが、合わせて世界記憶遺産にも繋がることを望んでいる。

### 3) プロジェクト・メンバー

|       |              |            |
|-------|--------------|------------|
| 小野崎 敏 | 日鉄鉱業（株）名誉顧問  | 足尾情報の提供    |
| 西成 典子 | 大妻女子大学教授     | 環境科学、地域振興  |
| 藤田 貢崇 | 法政大学教授       | WEBシステムの構築 |
| 藤田 良治 | 北海道大学総合博物館助教 | 動画記録の作成    |
| 永田 浩三 | 武蔵大学教授       | アーカイブ化の構築  |
| 小出 五郎 | 元NHK解説主幹     | プロジェクト総括   |

### 4) 連絡先

小出 五郎

〒195-0072 東京都町田市金井3-3-5 Tel/Fax 042-736-6581

## 3 海外鉱山文献読書会のご案内

丸山もとこ

近年、国際会議に出席したり、海外の鉱山を見学する機会が増えています。

そこで、英語で著された鉱山文献を読み解く勉強会を月一回のペースで行っています。文献を通して海外の鉱山史と鉱山事情を学ぶほか、英語の専門用語に慣れることを目的としています。この勉強は海外で活動するうえで欠かせません。英語が苦手という方こそ、奮ってご参加ください。

【テキスト】Spence, Clark C. *Mining Engineers and the American West: The Lace-Boot Brigade, 1849-1933*. 1970. Reprint. Moscow, Idaho: University of Idaho Press, 1993. 次回はp.284から

【次回】2011年9月21日（水）14:30～16:30

【会場】GIO オーガニックカフェ（港区港南1-9-36 アレア品川2F）

【会費】なし ただしテキストは自分で用意してください

※日程は直前に変更されることがあります。ウェブサイトで確認してください。

※参加希望者は事前に〈[jMrs.dokushokai@gmail.com](mailto:jMrs.dokushokai@gmail.com)〉までご連絡ください。

なお第30回鉱山の映像を観る会は、12月に予定していますが、まだ日程、会場については未定です。

## 4 諏訪鉄山、金鶏鉱山（長野県）巡検案内 村田淳

諏訪鉄山は武田信玄が鉄鉱石を採掘し用いたと伝えられています。この鉱山は、褐鉄鉱を産出し、鉱床は表土の直下に八ヶ岳の噴火により流出した溶岩を覆うように分布し、蓼科中央高原一帯を中心に分布している。この鉱床群は沈殿鉱床あるいは沼鉄鉱に分類され、露天掘りで採掘された。昭和12年から38年頃まで稼働した。また現在も沈殿を堆積しているところがある。

金鶏鉱山は茅野市金沢に位置し、発見は武田信玄の時代といわれている。当初は露頭部の砂金を採取したといわれ、多数の播鉢状の窪みが多数見られる。旧坑も数か所あり、坑道探鉱が行われたとみられる。鉱床は深熱水性網状脈で、一部には鉱染状鉱体もあり、金、銀などを産出した。

今回はこの二つの鉱山と時間の余裕があれば周辺の旧坑を見学する。

■日程：2011年10月1日（土）～2日（日）

■集合時刻と場所：10月1日（土）13時 JR茅野駅東口駅前広場

■勉強会および懇親会：10月1日（土）夕方 勉強会の後に懇親会

講師：諏訪鉄山の歴史保存をすすめる会会員、金鷄鉱山研究家

■見学場所：①諏訪鉄山（金堀場、石遊場、明治鉱区など）

案内：諏訪鉄山の歴史保存をすすめる会会員

②金鷄鉱山（露天掘り跡、堤跡、千軒平、選鉱所跡、田坑、  
鶴坑、亀坑など

③その他

■服装・装備など：服装は丈夫で汚れてもよい上着とズボン。足元のしっかりした靴、長靴はとくに必要ない。ハンマー、水筒。

■宿泊：ヒュッテ ウォールデン

茅野市北山5522-451 電話：0266-67-2577

■参加費：15,000円程度の予定

■申し込み締め切り：9月20日（火）（ニューズレター発行が遅れましたので、締め切りは延長されるでしょう—编者）

■問い合わせ、申込み：村田淳 221-0011横浜市神奈川区神之木台41-22  
電話・FAX：045-401-5259

■参考文献

松谷和男『諏訪鉄山』諏訪鉄山の歴史保存をすすめる会、改定四版、2009年7月

『戦跡としての諏訪鉄山』

『金沢の鉱山』私家版

市川正夫『日本の屋根 長野県の鉱山と鉱石』新毎書籍出版センター、2010年7月

ほか

## 5 第10回伊豆鉱山（下田、河津方面）巡検案内 村田淳

今年3月12、13日の巡検は東日本大震災などの影響で中止しました。

その同じ企画で2012年3月に実行します。日程と宿泊は変更します。

前回の下田市、河津町での巡検につづき、今回は伊豆市、河津町方面に

ある、なにかの事情で訪れなかったり、鉱業所や坑口を確認できなかった旧鉱山を見学します。

伊豆半島には、名前が変わり重複したものも含めて140の鉱山があると思われます。まさに坑だらけ、鉱山半島ともいえます。なかには中世に起源を求めることができるものもあります。鉱山の原初の姿とその成り立ちの過程をしのべます。後に大鉱山に発展したものもありますし、鉱山の規模は小さいけれども、いわゆる戦前、戦後を通じて日本の鉱山繁栄の時期にあった中小鉱山のありかたを見ることができるでしょう。今回は試掘と思われるものや盛んに採掘された割には知られていない鉱山を巡ります。

■日程：2012年3月10日（土）から11日（日）（1泊2日）（予定）

■集合時刻と場所：3月10日（土）12時00分 伊豆箱根鉄道修善寺駅前（自家用車を利用する人が多い場合は、伊豆の国市狩野川公園に変更することがあります）（昼食は済ませておくこと、現地までの交通は、車で参加するものがあり参加者で相談）

■見学場所：

◎10日午後

①水晶沢鉱山 ひ押しあるいは立て入れ坑3箇所 旧国道船原峠より往復1時間、標高差約80mの往復、尾根と多少の涸れ沢歩き。

②小土肥鉱山 試掘のためのひ押し坑2箇所 道路脇の沢の約5分の昇り降りと沢渡り、裸足で渡渉可能。

◎11日午前 弁当持参

③沢田鉱山 ひ押しあるいは立て入れ、排水坑、露天掘りなど約13箇所 予定していた河津集落、林祭寺からのルート（標高差約400m、往復約3時間）を変更し、天子平（別荘地）（標高約520m）から標高差約100m、片道1時間のルートに変更しました。

◎ 午後 （初めてあるいは再度の見学希望者）

④佐賀野鉱山 ひ押しあるいは立て入れ坑5箇所 昨年見学済みですが新たに一つの坑口を発見、鉱床の様子を推測できる。

■服装・装備：服装は丈夫で汚れてもいい上着とズボン。足元のしっかりした靴あるいは長靴。（小土肥鉱山は浅い川を渡る）、ヘルメット、ヘッドランプ、ハンマー（あればよい）。

■宿泊：交渉中 電話： 河津町の民宿の予定

■参加費：18,000円程度の予定（集合場所までの交通費と昼食代は含まれ

ません。)

■ 申込締切り：2012年2月25日（土）

■ 申込み、問合せ：参加の可能性のあるかたは一応その旨申し込んでください。

メールでも結構です。また行き帰りの利用交通機関を必ず明記してください。

## 6 第9回国際鉱山ヒストリー会議 論文募集のお知らせ

2012年4月開催予定の第9回国際鉱山ヒストリー会議（南アフリカ共和国ヨハネスブルグ）では、発表論文を募集しています。

梗概の締切は2011年11月1日、発表原稿の締切は2012年1月31日です。

詳細は下記サイトをご覧ください。

<http://www.imhc.co.za/call-for-papers.php>

## 7 資料紹介

川俣修壽

### 会員著作の紹介

原田洋一郎著『近世日本における鉱物資源開発の展開－その地域的背景』古今書院。300ページ、本体7800円

本書は、あとがきによると2006年12月筑波大学に提出した学位論文がもとになっている。

全体の構成は、序論、江戸中後期における日本の非鉄金属鉱山、武蔵国秩父郡中津川村における小規模鉱山の開発、江戸後期、飛騨国北部地域における鉱山業の展開、幕府直轄鉱山、和見銀山の存続とその周辺地域、結論で、参考文献の後に「石見銀山における御直山の開発状況」が1779年1月から6月までと同1820年1月から6月が付いている。

研究方法は、「鉱物資源開発に関わった地域を総体として捉え、検討の対象とする」もので、3か所の研究対象地域は、当会の合宿でも訪問した



ので馴染みがある。経営主体、権利関係、産出量と賃金、必要物資、経費等を具体的に例示している。

私がかねてから疑問に思っていた、産出鉱量のゴマカシについても記述があり納得した。また、茂住銀山、和佐保銀山の金山師の屋号一覧、茂住銀山集落の土地状況の変化、同銀山和右衛門家の資産、商品販売先などの資料も参考になる。

石見関係では、衰退する銀山と製鉄業との関係や周辺の産業にも目配りしている。幕府から銀を借り入れ、それを原資に貸付を行い、得た金利で鉱山経営を行うなど、今でいう特殊法人に税金をつぎ込むのと同じ様な経営方式を具体的に述べ、これが地域活性化に役立ったと分析している。

これまで、産出量、開発権利関係、開発組織、技術などから論じられてきた江戸中期以降の鉱山を、人間が生活していた町として捉え、豊富な資料で分析しているのは新鮮だ。特に、石見銀山の第5章は資料も充実しており読み物としても面白い。

日本各地の鉱山をこのような研究手法で分析が進めば、新しい鉱山社会像が生み出されるので次作を期待したい。

**村串仁三郎著『自然保護と戦後日本の国立公園』時潮社。402ページ、本体6000円。**

本書は、前書「国立公園成立史の研究」の続編で、当研究会の研究領域に直接関わるものではないが、一部鉱山開発とその反対運動事例も取り扱っているので、その部分に焦点を当てて紹介する。

阿寒国立公園内（雌阿寒岳）の硫黄鉱山開発（開発は日本特殊鉱業）は、戦後復興と資源開発の中で自然保護より産業優先政策に敗北した経緯を、自然保護派の運動を中心に分析している。

雌阿寒岳硫黄鉱山のように比較的小規模な開発のために、貴重な自然を破壊したのは、経済産業政策を推進する吉田茂政権が、自然保護運動に危機感を持ち強行に推進したと論じている。

黒部第4発電所（黒4ダム）の開発では、地元の観光関係者の開発歓迎意向、中央での理解不足などを実証している。最近の観光客数は、年間約140万人で観光業者の見込みは大当たりした。ちなみに、この付近では戦前から裏剣の池の平、高天原の鉱山開発を菊池今朝和会員が雑誌No.

88号で報告している通り。

電源開発と自然保護では、敗戦当時の電力不足を考えれば著者も指摘している通り、出自が経済開発体制派の自然保護運動は、腰砕けにならざるを得なかった。現在、盛んに運動が展開されている「世界遺産」指定も同様で、基本的に遺産の保護育成より「これを機会に観光事業で一儲けしよう」という魂胆だから、その意味では、本書で批判されている田村剛の方がまだましかも知れない。

なお、梅棹忠夫の「黒部溪谷」や当時の自然保護運動を批判しているが、この掟破りは、著者が自然保護運動と直接関係を持っていなかったことが可能にした。著者によると戦後編の後編も予定しているそうなので、体調管理に万全を期して完成させて欲しい。両書とも高額だが、図版、表などの経費を考えるとやむを得ない。

### 寄贈資料の紹介

1. 「金山研究」第8集－2005年度記念講演と公開講座の記録。巻末付録：湯之奥金山における現地ワークショップーランドスケープから見た産業遺産と地域再生

主な内容は、「穴山氏と河内領」秋山敬、「甲斐と駿河を結ぶ道」望月真澄、「河内の産業と経済の歩み」斎藤康彦、「古代の甲斐国－湯之奥金山とその周辺」平川南、「戦国時代に河内の山に生きる」笹本正治、「宝石の色と輝き」高橋泰。

2. 「金山研究」第9集－2006年度公開講座の記録

主な内容は、「金工芸品の世界－蒔絵」中里壽克、「甲州金・小判とその文化」西脇康、「蘇れ仏像・黄金の輝き－ラオス・ルアンパバーン（世界遺産）仏像の修復の記録」柳本伊左雄、「安土城と大阪城にみる金箔瓦の世界」中村博司、「先端技術と都市鉱山」小松美鈴。なお、西脇氏によると金貨は概観より品位（質量）に注意が必要だと説いている。いずれも、甲斐黄金村・湯之奥金山博物館発行

3. 「松田解子の会」会報第13号。主な内容は、「松田解子さんと国会図書館」山崎元、戦前の発禁本返還のいきさつ。「解子さんからのおく

りもの」佐藤貴美子、「松川事件と裁判から学ぶ」伊部正之等。 以上、川俣修壽

#### 4. 田川市石炭・歴史博物館館長講座記録集

『炭鉱の語り部Ⅰ』－平成20年度『炭鉱語り部』の記録（A4版、125頁）

『炭鉱の語り部Ⅱ』－平成21年度『炭鉱語り部』の記録（A4版、129頁）

この記録は、田川市石炭・歴史博物館館長安蘇さんが、元炭坑夫、炭坑関係者からの貴重な聞き取り記録である。非売品。以上、村串

## 8 事務局からのお知らせ

### 寄付のお礼

総会で本年度の赤字会計を補てんするための寄付を会長が呼びかけましたが、8月末現在、6万1千円ほど集まりました。有難うございました。

本年度会費未納者がまだ5割ほどおりますので、会費の納入のさい、寄付のほどを重ねてお願いを申し上げます。会長。

**会費納入のお願い** 会費未納の方は振込をお願いします。

### 会誌89号の原稿募集

会員の皆さん方の投稿を期待しています。内容、形式を問いません。締め切りは、本年12月末。村串まで、メール原稿かまたは、CD、FDと打ち出し原稿を郵送下さい。なお、投稿については、総会で決めた要綱を参照して下さい。